

エンドユーザー様用

デルタ電子 自立運転使用方法



型番 RPI H6J(P)

RPI_H(P)シリーズ取扱説明書 P5 P7抜粋

型番 RPI_H10J

RPI_H10J-取扱説明書 P5 P7 抜粋

型番 H4J_220

Hシリーズ-取扱説明書 P6 P8-P9

※ご不明な点は、デルタ お問い合わせ窓口

0570-550-065までお問い合わせください。

パワーコンディショナの運転と停止

RPI H6J(P)

自立運転を開始するには

本機能は、停電が発生した際に、お客様が操作する必要があります。
自立運転を毎日行う場合は、毎日「運転切替スイッチ」の再操作が必要です。
そのままでは出力しません。

1. 運転切替スイッチを「自立」にする。 自立ランプが点滅します。

※ 製品底面右側カバーのビス(2本)を外し、「運転切替スイッチ」の
“自立←停止→連系”を「自立」にする。



操作後は必ずカバーを元の状態にもどしてください。
機器内部に水が侵入し、故障の原因となります。

2. 表示部に“STAAL”が表示され、 カウントダウンを開始します。



000000 は自立運転開始までの時間(秒)を表します。

1秒ごとカウントダウンし、終了後運転を開始します。

3. 運転開始後、自立ランプが点灯します。



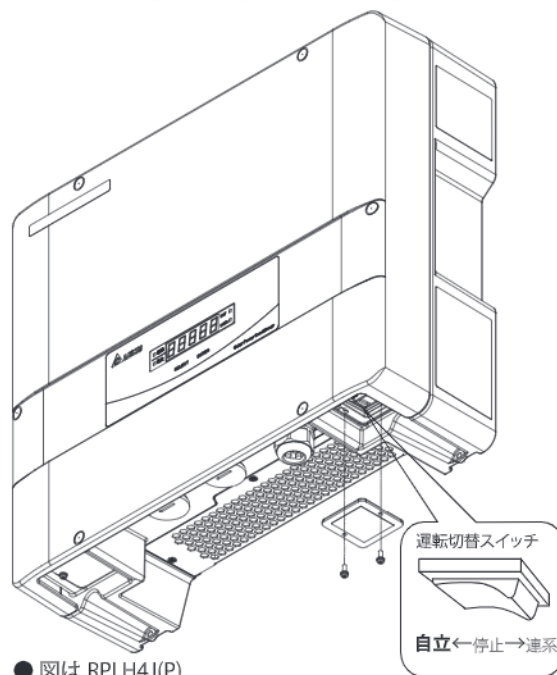
4. 自立運転コンセント[※]に電気製品の電源 プラグを差し込みます。



000000 は消費電力1.0kVAを表します。

※ パワーコンディショナ底面右側カバー内専用コンセント及び自立運
転出力端子台に接続された屋内停電用コンセント(別途設置工事
を行った場合)

※ 設置の際に表示設定を屋外(Out)にした場合、表示部が約20分後
に消灯しますが、機能は働いています。



● 図は RPI H4J(P)

5. 日没後自動的に運転停止します。 表示部が消え、自立ランプが消灯します。



- 電気製品が接続されている場合、日没前もしくは日射が弱い時に
“SF48”が表示されますが、故障ではありません。
- 翌日も自立運転を行う場合には、パワーコンディショナの「運転
切替スイッチ」の“自立←停止→連系”を「停止」にし、再度「自立」
にする。
- 自立運転を毎日行う場合は、同じ操作を毎日行ってください。そ
のままでは“W20”(太陽電池不足電圧検出)が表示され運転出来
ません。

ご注意

- 太陽電池容量と日射条件により、使用できる電力が小さくなる場合
があります。
- 停電から復旧した場合、お早めに連系運転に切り替えてください。



接続する機器の電力の最大が1.5kVA以内(AC100V
最大15A以内)になるようにしてください。

接続する機器の電力が1.5kVAを超えた場合、または
日射が弱く発電電力が使用機器の消費電力を下回る場
合、表示部に“SF48”の点検コードが表示され、自立
ランプが点滅します。

自立切替スイッチを一旦に「停止」にし、接続する機器
を減らすか、日射が安定するまで待って、再度「自立」
にしてください。

パワーコンディショナの運転と停止

連系運転を開始するには

本装置は、自動運転をしますので、日常での操作は不要です。

1. 太陽光発電用ブレーカーを「ON」にする。

2. 運転切替スイッチを「連系」にする。
連系ランプが点滅し、カウントダウンを開始します。

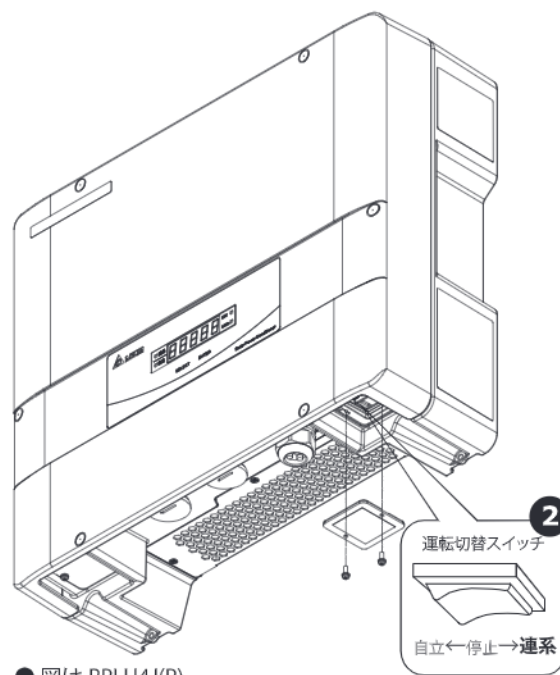
※ 製品底面右側カバーのビス(2本)を外し、「運転切替スイッチ」の“自立←停止→連系”を「連系」にする。



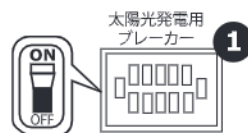
操作後は必ずカバーを元の状態にもどしてください。
機器内部に水が侵入し、故障の原因となります。



連系運転開始までの時間(秒)を表します。
1秒ごとカウントダウンし、終了後運転を開始します。



● 図は RPI H4J(P)



3. 運転開始後、発電電力を表示します。
連系ランプが点灯します。

4. 日没後自動的に運転停止します。
表示部が消え、連系ランプが消灯します。



※ 設置の際に表示設定を屋外 (Out) にした場合、表示部が約 20 分後に消灯しますが、機能は動いています。



ご注意 本体の電力量表示は、ある程度の誤差を含みます。(システムの容量、天候等によっても変化します)
発電の目安としてご活用ください。(本製品は計量法の対象ではありません)

- 電力系統が停電した場合、本装置は自動的に運転を停止します。電力系統が正常にもどれば自動的に運転を再開します。
- 夜間や日中晴れていても太陽電池モジュールに雪が積もっているときなど、太陽電池モジュールが発電しなくなると、パワーコンディショナは運転を自動的に停止します。(運転を停止すると表示部には何も表示しません。)
- 本装置は、自動運転をしますので、日常での操作は不要です。従って、通常は「直流側開閉器」及び「運転切替スイッチ」を操作する必要はありません。

パワーコンディショナの運転と停止

RPI H10J

自立運転を開始するには

本機能は、停電が発生した際に、お客様が操作する必要があります。自立運転を毎日行う場合は、毎日「運転切替スイッチ」の再操作が必要です。そのままでは出力しません。

1. 運転切替スイッチを「自立」にする。 自立ランプが点滅します。

※ 製品底面中央カバーのビス(2本)を外し、「運転切替スイッチ」の“自立←停止→連系”を「自立」にする。



操作後は必ずカバーを元の状態にもどしてください。機器内部に水が侵入し、故障の原因となります。

2. 表示部に“STAAL”が表示され、 カウントダウンを開始します。



000000 は自立運転開始までの時間(秒)を表します。

1秒ごとカウントダウンし、終了後運転を開始します。

3. 運転開始後、自立ランプが点灯します。



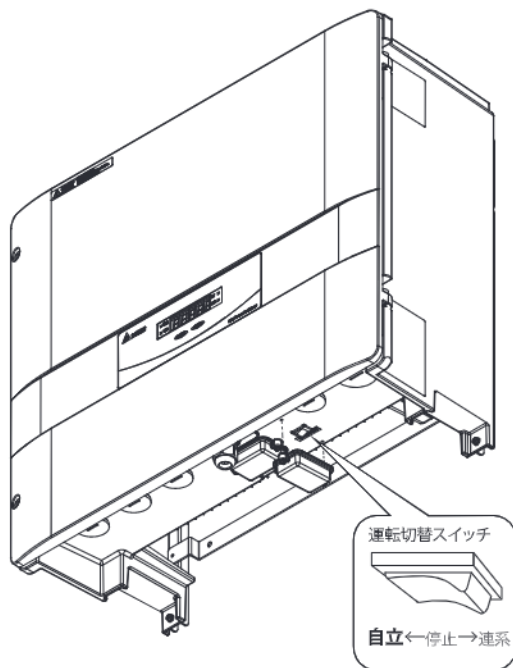
4. 自立運転コンセント[※]に電気製品の電源 プラグを差し込みます。



000000 は消費電力1.0kVAを表します。

※ 自立運転出力端子台に接続された屋内停電用コンセント(別途設置工事を行った場合)

※ 設置の際に表示設定を屋外(Out)にした場合、表示部が約20分後に消灯しますが、機能は働いています。



5. 日没後自動的に運転停止します。 表示部が消え、自立ランプが消灯します。



- 電気製品が接続されている場合、日没前もしくは日射が弱い時に“SF48”が表示されますが、故障ではありません。
- 翌日も自立運転を行う場合には、パワーコンディショナの「運転切替スイッチ」の“自立←停止→連系”を「停止」にし、再度「自立」にする。
- 自立運転を毎日行う場合は、同じ操作を毎日行ってください。そのままでは“W20”(太陽電池不足電圧検出)が表示され運転出来ません。

ご注意

- 太陽電池容量と日射条件により、使用できる電力が小さくなる場合があります。
- 停電から復旧した場合、お早めに連系運転に切り替えてください。



接続する機器の電力の最大が1.5kVA以内(AC100V最大15A以内)になるようにしてください。

接続する機器の電力が1.5kVAを超えた場合、または日射が弱く発電電力が使用機器の消費電力を下回る場合、表示部に“SF48”の点検コードが表示され、自立ランプが点滅します。

自立切替スイッチを一旦に「停止」にし、接続する機器を減らすか、日射が安定するまで待って、再度「自立」にしてください。

パワーコンディショナの運転と停止

連系運転を開始するには

本装置は、自動運転をしますので、日常での操作は不要です。

1. 太陽光発電用ブレーカーを「ON」にする。

2. 運転切替スイッチを「連系」にする。
連系ランプが点滅し、カウントダウンを開始します。

※ 製品底面中央カバーのビス(2本)を外し、「運転切替スイッチ」の“自立←停止→連系”を「連系」にする。

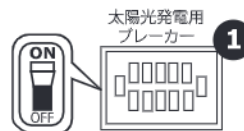
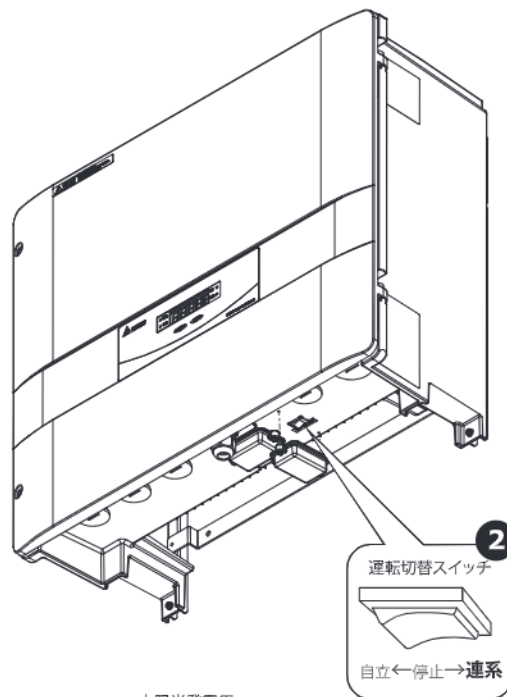


操作後は必ずカバーを元の状態にもどしてください。
機器内部に水が侵入し、故障の原因となります。



00:00 は

連系運転開始までの時間(秒)を表します。
1秒ごとカウントダウンし、終了後運転を開始します。



3. 運転開始後、発電電力を表示します。
連系ランプが点灯します。

4. 日没後自動的に運転停止します。
表示部が消え、連系ランプが消灯します。



9.990 は発電電力9.9kWを表します。

※ 設置の際に表示設定を屋外(Out)にした場合、表示部が約20分後に消灯しますが、機能は動いています。



ご注意 本体の電力量表示は、ある程度の誤差を含みます。(システムの容量、天候等によっても変化します)
発電の目安としてご活用ください。(本製品は計量法の対象ではありません)

- 電力系統が停電した場合、本装置は自動的に運転を停止します。電力系統が正常にもどれば自動的に運転を再開します。
- 夜間や日中晴れていても太陽電池モジュールに雪が積もっているときなど、太陽電池モジュールが発電しなくなると、パワーコンディショナは運転を自動的に停止します。(運転を停止すると表示部には何も表示しません。)
- 本装置は、自動運転をしますので、日常での操作は不要です。従って、通常は「直流側開閉器」及び「運転切替スイッチ」を操作する必要はありません。

パワーコンディショナの運転と停止

H4J_220

自立運転を開始するには

※H5.5J_223 には自立がありません。

本機能は、停電が発生した際に、お客様が操作する必要があります。*1

自立運転を毎日行う場合は、毎日操作をする必要があります。

1. パワーモニターの「設定」画面から「整定値」を選択します。
2. 運転切替の「連系▼」をタッチするとメニューが表示されます。



3. メニューから「自立運転」をタッチし、[設定]をタッチします。



4. LED表示パネルの自立LEDが緑色点滅します。



5. しばらくすると点滅が緑色点灯に変わります。
6. 自立運転用コンセント *2 に電気製品の電源プラグを差し込みます。
7. 日没後自動的に運転を停止します。LED表示パネルが点滅 (1秒点灯、4秒消灯) します。

- 電気製品が接続されている場合、日没前もしくは日射が弱い時に“SF48”が表示されますが、故障ではありません。
- 翌日も自立運転を行う場合には、パワーコンディショナの「運転切替スイッチ」の“自立←停止→連系”を「停止」にし、再度「自立」にする。
- 自立運転を毎日行う場合は、同じ操作を毎日行ってください。そのままでは“W20”(太陽電池不足電圧検出)が表示され運転出来ません。

ご注意

- 太陽電池容量と日射条件により、使用できる電力が小さくなる場合があります。
- 停電から復旧した場合、お早めに連系運転に切り替えてください。



接続する機器の電力の最大が1.5kVA以内(AC100V最大15A以内)になるようにしてください。
接続する機器の電力が1.5kVAを超えた場合、または日射が弱く発電電力が使用機器の消費電力を下回る場合、表示部に“SF48”の点検コードが表示され、自立ランプが点滅します。
自立切替スイッチを一旦に「停止」にし、接続する機器を減らすか、日射が安定するまで待つて、再度「自立」にしてください。



自立運転端子に命に係わる機器を接続しないでください。日射変動により機器停止の恐れがあります。

- *1 パワーモニターの電源をACアダプターから供給すると、停電時にパワーモニターが動作しません。自立をお使いの場合は、パワーコンディショナから電源を取るように工事してください。
- *2 自立運転端子台に接続された屋内停電用コンセント（別途設置工事を行った場合）

発電量を見るには

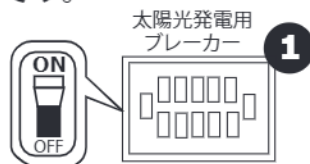
発電量や積算発電量は、パワーモニターから見るができます。
操作方法につきましては、パワーモニターの取扱説明書をお読みください。

パワーコンディショナの運転と停止

連系運転を開始するには

本装置は、自動運転をしますので、日常での操作は不要です。

1. 太陽光発電用ブレーカーを「ON」にする。
2. パワーモニターの「設定」画面から「整定値」を選択します。
3. 運転切替の「停止▼」をタッチするとメニューが表示されます。



4. メニューから「連系」をタッチし、[設定]をタッチします。



5. LED表示パネルの連系LEDが緑色点滅します。



6. しばらくすると（約5分）点滅が緑色点灯に変わります。
7. 日没後自動的に運転を停止します。LED表示パネルが点滅（1秒点灯、4秒消灯）します。

- 電力系統が停電した場合、本装置は自動的に運転を停止します。電力系統が正常にもどれば自動的に運転を再開します。
- 夜間や日中晴れていても太陽電池モジュールに雪が積もっているときなど、太陽電池モジュールが発電しなくなると、パワーコンディショナは運転を自動的に停止します。（運転を停止するとLED表示パネルが点滅（1秒点灯、4秒消灯）します。）
- 本装置は、自動運転しますので、日常での操作は不要です。従って、通常は「直流開閉器」および「パワーモニターでの運転切替」の操作は不要です。